

組織目標評価報告書（平成26年度）

部局名：

歯学部

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標	1) 診療参加型臨床教育の充実
<p>1) 診療参加型臨床教育の充実 (背景:全国的に展開される「歯学教育の改善・充実」に対応するため) 達成目標と実習項目を明確化する。臨床教授、臨床准教授、臨床講師制度を利用し、学外医療機関の臨床教育への参画を推進する。特に、周術期管理や在宅介護現場で活躍できる歯科医師を育てることができる教育システムを開発する。</p> <p>2) 学士力保証と教育の効率化の検証 (背景:大学の組織目標を先行学部として実施するため) アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・マップの循環的な相互検証を目指す。新しい教育ニーズをカリキュラムに組み込む検討を進める。</p> <p>3) シミュレーションシステムやIT活用による効率的な教学システムを構築 (背景:教育に費やせる人的資源の減少に対応するため) シミュレーションシステムの老朽化に対応して改修を行い、新たに学生証を用いた電子的出席管理システムなどを試行する。</p>	<p>●文部科学省の「課題解決型高度医療人材養成プログラム」事業に、岡山大学が全国の10大学を率いて申請した「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革」が採択された(全国で歯科医師養成プログラムは2件のみ採択)。平成26年9月26、27日は全国の連携大学、研究所からなる歯学教育改革コンソーシアムが設立され、記念講演・シンポジウムを開催した。平成27年2月13、14日にはキックオフシンポジウムを開催し、医学教育課課長補佐の島居剛志様からの基調講演をいただいた。</p> <p>●在宅・訪問歯科診療参加型臨床実習を開始した。在宅・訪問歯科診療を地域で実践している学外の医療機関に全ての学生を派遣し、現場実習を体験させた。医療機関の担当者は歯学部の臨床講師として学生を指導・評価した。一方、学生側も指導医を評価し、その結果をフィードバックすることで実習の充実を図った。</p> <p>●外科系の科目を中心に臨床実習終了時オスキー(アドバンストオスキー)を導入した。</p> <p>●臨床実習における電子ログブックシステムを運用開始し、卒業臨床実習への効率的な移行に努めた。</p> <p>2) 学士力保証と教育の効率化の検証</p> <p>●アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・マップの循環的な相互検証を通して、60分授業に向けて新しい教育ニーズをカリキュラムに組み込む検討を始めた。3年次編入学制度についてのアンケート調査を編入学学生ならびに編入学卒業生に対して行い、学士編入学時期を2年次に移行する準備を開始した。</p> <p>●新たに「医療法学・社会福祉学」と名称を冠した授業シリーズを開講し、歯学に関連した法律問題から倫理問題まで文理融合教育を展開し、歯学部学生の社会性を涵養した。また、「歯科法医学」に関するFDを2回開催し、新たな科目導入の検討を開始した。</p> <p>●短期留学制度(OPAPUS)における海外の提携大学の増数に努めた。特に、香港大学、シンガポール大学、オハイオ州立大学、チャールズスタート大学など有名校と部局間交流協定を結んで、歯学部3年次生を15名海外短期留学へ派遣した。</p> <p>3) シミュレーションシステムやIT活用による効率的な教学システムを構築</p> <p>●要介護高齢者を模倣した岡大式シミュレーターを製作し、在宅・訪問歯科診療の基礎的なトレーニングを行うシステムを整えた。また、要介護高齢者支援施設を利用したPBL演習を開発した。</p> <p>●タブレット端末を利用した電子ログブックを開発し、臨床実習生や臨床研修生に貸与を開始した。これにより、各自の達成度を管理、比較することが可能となった。</p> <p>●継続して臨床基礎実習で使用するシミュレーションシステムの改修(6台)を進めた。</p> <p>●ICカード型学生証を用いた歯学部棟入退室システム、授業の出席管理システムを整備した。</p> <p>4) 客観的指標</p> <p>●国家試験合格率:新卒87%(全国国立大学2位)、総数80%(全国国立大学2位)</p> <p>●研修医マッチング(100%)</p>
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<p>1) 国家試験合格率</p> <p>2) 研修医マッチング率</p>	
②研究領域	自己評価
②-1 目標	1) 歯学教育に関する調査・研究の推進
<p>1) 歯学教育に関する調査・研究の推進 (背景:歯学教育や研究を、有病者医療や在宅介護現場に適応させるため) 周術期管理やがん支持療法国際学会を7月に岡山で主管する。</p> <p>2) 研究実施体制等の整備 (背景:外部資金獲得を維持する) 歯学系構成員による文部科学省科学研究費の申請および採択率は従来より高く、特に申請数については上限に近づいている。これらの数値を維持しながら同一人による複数種類の申請を目指し、採択率のさらなる上昇を図る。</p> <p>3) 歯学部先端領域研究センターの充実と共同利用施設の改革 (共同研究に関する環境・資源・整備等の提供) 平成25年度に発足させた「歯学部先端領域研究センター」を本格運営させ、また従来から存在する歯学部共同利用施設の使用規則等の改訂を行うことにより、さらなる利便性の向上を図る。その結果として研究業績の向上を目指す。また、平成25年度から行なっている歯学系教員が主催する研究会「BioForum」を継続し、学内外との共同研究の促進を図る。</p> <p>4) その他の研究活動は、研究科(歯学系)に準ずる。</p>	<p>1) 歯学教育に関する調査・研究の推進</p> <p>●歯学部が主催したもので、在宅・訪問歯科診療参加型臨床実習教育プロジェクトキックオフシンポジウムを平成26年4月27日に、がん化学療法・周術期等の高度医療を支える口腔内管理を具体的に考えるシンポジウムを7月26、27日に開催した。また、課題解決型高度医療人材養成プログラム採択に関連して、歯学教育改革コンソーシアム設立記念講演会・シンポジウムを9月26、27日に、キックオフシンポジウムを平成27年2月13、14日に開催した。また、バイオイメージングとジャーナリングに関する国際シンポジウムを2月15日に開催し、国内外からの研究者を招き、歯科医学を中心とした分子イメージング技術の進歩について議論した。</p> <p>2) 研究実施体制等の整備</p> <p>●文部科学省科学研究費の申請および採択率 歯学系教員による文部科学省科学研究費の申請数100件(退職直前の教員2名を除く全員申請)、新規採択率47.5%、取得者率90.6%で高い水準を維持した。本結果は、全国の国立大学歯学部の中で同率3位、岡山大学の主要部局の中でトップの成果であった。</p> <p>●トムソンローターの歯学部関連英文論文の総論文数(全国国立大学3位)、総引用度数(全国国立大学2位)、1論文当たりの相対引用度数(全国1位)と高値を維持した。</p> <p>3) 歯学部先端領域研究センターの充実と共同利用施設の改革</p> <p>●歯学部先端領域研究センターの実質的運用をはじめ、特任教授1名、専任教員2名、JSPS外国人特別研究員2名を専属構成員として配置するとともにホームページを立ち上げた。</p> <p>●本センターの特任教授は、日本の歯科学界のトップの賞である日本歯科医学会会長賞(研究部門)を授賞、さらには世界で最も優れた歯学研究者に与えられるInternational Association for Dental Research (IADR) Distinguished Scientist Awardを授賞した。</p> <p>●本センターを利用した今年度の研究業績は、欧文原著(査読有)29編、欧文総説(査読有)4編であった。</p> <p>●歯学部共同利用施設管理運営内規を制定し、共同利用施設の利便性を向上させた。</p> <p>●歯学系若手教員主催研究会「BioForum」を4回開催し、学内外との共同研究の促進を図った。</p>
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<p>1) 科学研究費の新規採択率</p> <p>2) 取得者率</p>	

③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
<p>③-1 目標</p> <p>1)社会貢献の体制を確立する (背景:生涯教育と情報発信の基地としての役割を強化する) 病院や研究科との連携を強化し社会貢献を効率良く実施するため、岡山歯学会、同窓会、社会(医療関係者等)と広く意見交換を行い、情報発信ができる体制を確立する。</p> <p>2)地域保健活動の推進 (背景:予防医学の立場から地域保健活動が求められているため) 保健所等の地域行政機関と協力して、情報収集、情報提供を通して地域住民に貢献する。口腔がん検診を実施する。</p> <p>3)国際交流の推進 (背景:ASEAN等と連携をとり、日本の歯科医療システムや機器の国際進出を助ける) ベトナムに国際歯科センターを設立し、産学連携で邦人の医療支援を支える。ミャンマーの医療支援に参画する。</p> <p>4)地域医療については、大学病院に準ずる。</p> <p>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <p>1)診療報酬請求総額 2)患者のべ総数 3)部局間、大学間交流協定の締結数</p>	<p>1)社会貢献の体制を確立する ●岡山県歯科医師会と連携して、在宅・訪問診療専門の臨床講師を7名任用した。これにより、大学病院の歯科医師だけでは対応ができない在宅介護現場における学外実習を充実させることに成功した。</p> <p>●歯学部として、岡山県歯科医師会と共催、岡山県の後援により、県の条例で制定された11月8日の歯科健康増進活動である「いい歯の日」において、県民公開講座として第1回「歯と健康を考える集い」を本学において開催し、地域の医療意識の向上に貢献した。</p> <p>2)地域保健活動の推進 ●授業の一貫として、保健所の検診に歯科医師を派遣し、検診活動および情報提供活動を積極的にに行った。</p> <p>●口腔がんの早期発見にむけた開業歯科医師むけの実習形式の講座を開催した。さらに、がんプロフェッショナルコースの一部として、口腔がんの診断、治療、栄養管理、口腔ケア、摂食嚥下リハビリテーションへの取り組みを教育、中四国の口腔がん教育の中心的拠点として、専門医の育成に尽力している。</p> <p>●歯科系病院 診療報酬請求総額 全国3位、総患者数 全国4位。</p> <p>3)国際交流の推進 ●ベトナムハイフォン医科薬科大学に「国際歯科センター」を平成26年5月30日に開設、現地邦人やベトナム人の歯科医療をサポートするとともに、ハイフォン医科薬科大学の歯学教育研究を支援している。また、三菱商事や野村総研などとともに、ハイフォンのODA開発に参画、歯科医療機器メーカーとともに日本式医療システムや医療機器メーカーの国際進出を支援している。</p> <p>●国立六大学国際連携機構の共同プロジェクトとしてミャンマーの歯学部支援に尽力、デンタルチェアを寄贈し、予防歯科学を中心に歯学教育の支援を行った。</p> <p>●大学機能強化戦略経費を頂き、クォーター制を利用した研究室配属と短期留学制度を推進し、海外派遣と受入を行った。今年は、15名の歯学部生を、シンガポール大学、ハサヌディン大学、香港大学、サスカチュワン大学、ハイフォン医科薬科大学、台北医学大学、カリフォルニア大学ロサンゼルス校に派遣した。一方、サンパウロ大学、ハイフォン医科薬科大学、台北医学大学、ハサヌディン大学、香港大学から歯学部生を18名招き、学生主催のウエルカムパーティ、英語授業シリーズを開講した。</p> <p>●平成27年度の歯学部生の海外派遣事業は、日本学生支援機構の補助金採択を頂き、経済的な支援が可能となった。</p>
<p>【総括記述欄】</p> <p>歯学部の状況は概してよい。例えば、国家試験合格率は、平成25年度は全国国立大学1位、平成26年度は全国国立大学2位といった具合である。課題解決型高度医療人材養成プログラム等、比較的大きな予算も頂いている。今年の目標は、編入学制度の2年次への変更、60分授業に対応し、新しいカリキュラムを確立することである。特に、マンパワーに限りがある歯学系にとっては、津島地区への移動を伴う教養教育の支援は負担が大きい。効率化を図りながら、素晴らしい学生生活を支援したいものである。そのためには、旧来の学問の枠組みに捕らわれない、世界が求めるニーズに対応した問題解決能力を育てる授業科目の設定が必要ではないかと感じる。また、国費外国人留学生の倍増計画に向けた頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラムや国費外国人留学生の重点配置を行う特別プログラムの獲得が望まれる。</p>	